

須賀川市

# 芭蕉記念館

かわら版

第16号  
平成31年3月

## 俳句ポスト受賞作品

須賀川市内二十三か所と小中学校に設置している俳句ポストに投句された俳句を選考しました。〈本選句会／一月三十日〉  
今年、三、三八八名より九、二〇八句の投句がありました。

＊最も優れた作品である年間特選と秀逸句を紹介します。

### 年間特選句

牡丹賞

宇津峰へ落ちて怒濤の天の川

佐久間博信  
(東京都江戸川区)

ぼたん賞

ひらひらともみじの手紙ふってくる

星 かのん  
(柏城小2年)

赤松賞

季語生みし我が古里の牡丹かな

道山 孝男  
(須賀川市)

あかまつ賞

星の子は五千万才夏の夜

岡部幸太郎  
(大東小4年)

翡翠賞

薫風や出会ふ人みな案内人

伊藤 厚子  
(山形県山形市)

かわせみ賞

ふゆのまちウルトラマンにゆきぼうし

鈴木 心優  
(阿武隈小4年)

### 年間秀逸句

### 句意

牡丹

青春時代までを見続けて来た母なる山、宇津峰。夜空を見上げれば、天の川は我が家の上から宇津峰へと流れて落ちて行きます。この壮大な景色を是非俳句にと思って作ったのがこの句です。  
校であそんでいるときに、わたしの目の前を何まいかのもみじのはが、ひらひらとおちてきました。わたしには、それがもみじからの手紙に見えました。

赤松

牡丹が樹齢を重ね枯れた古木や折れた枝等を供養する行事「牡丹焚火」歳時記の冬の季語としてまた、牡丹は須賀川市の花として、何時までも咲き誇ってほしいものです。

あまつ

四年生になって、理科の勉強で星について学習しました。たくさん星があつて、小さく光っている星でも、すごく長生きしていきくと五千万才くらいかな、と想像しました。

翡翠

念願叶って、芭蕉「句枕の地」須賀川を訪ねました。須賀川の方々は、何と「芭蕉を俳句を旅人」大切になさっているのです。賜った御親切への感謝を句に込めました。

かわせみ

家族で須賀川の町中へ出かけた時に雪がふってきました。ウルトラマン像や、かいじゅう像に、雪がつもっているところを見てこの俳句ができました。

### 年間入選句

まつしろなゆきのおふとんジャンプする	西袋一小一年	高野 耀斗
みずぶそくきゆうりのかたちがぶーめらん	白江小一年	阿保羅衣津
じきゆう走秋風となりをおいこした	柏城小四年	大和田あやめ
春がきたいつもみたいなかわをして	柏城小四年	相樂 修斗
校庭をたんけんしている一年生	白方小五年	矢部 康祐
おじいちゃん戸を開けて言う雪降るぞ	大東小六年	若林 里歩
カラカラと石が転がる秋初め	第二中一年	西村 怜太郎

### 年間優秀校

等射賞

須賀川市立阿武隈小学校

### 第二回入選句

●第二回の総投句数は4,712句でした。

### 一般の部

入選句6句

季語生みし我が古里の牡丹かな	道山 孝男	東西へ山脈を置く冬景色	関根 邦洋
一章で止まる論文秋刀魚焼く	服部 美桜	マラソンの砲初冬を揺るがして	鈴木 征子
尼様は母と同齢白牡丹	佐久間博信	大根干す村を飛び越す一機かな	高橋 富子



# 子どもの部

## 入選句34句

まつしろなゆきのおふとんジャンプする  
みずぶそくきゆうりのかたちがぶーめらん  
じてんしゃはまつすぐあきのかぜのよう  
あきのやまおやつこうかんだのしいな  
にあうかないともみじの手紙ふつてくる  
きりふかくめいろみたいなあさのみち  
ひらひらともみじの手紙ふつてくる  
あきのそらががみみしたいなみずたまり  
あめんぼは雨のにおいがするんだよ  
白鳥がいえのまうえをとんでいく  
ゆきだるま。パパにおかえりつたえてね  
さん道にろうそく光る初もうで  
きのうみたたいまつあかしゆめに出る  
いねかりをはじめたよつかれたよ  
うんていのしましになる秋のかげ  
冬の森にとけこんでいる時計台  
はだか木が雪の実をつけ立っている  
イチイの実。プールの前でさびしそう  
ふゆのまちウルトラマンにゆきぼうし  
じきゆう走秋風となりをおいこした  
願いこめ松明あかし天こがせ  
たくさんの野菊がゆれるお城山  
あまがえる葉っぱのしずくのぞきこむ  
牡丹焚火空までこがしていいにおい  
水たまり中をのぞけばいわし雲  
台風がたてた予定をこわしてく  
水たまりふいに映った赤とんぼ

- |        |     |     |
|--------|-----|-----|
| 西袋一小一年 | 高野  | 耀斗  |
| 白江小一年  | 阿保羅 | 衣澤  |
| 阿武隈小一年 | 境田  | 華凜  |
| 長沼小一年  | 和田  | 寧々  |
| 白方小一年  | 秋保  | 芹那  |
| 柏城小二年  | 菊地  | 留奈  |
| 柏城小二年  | 星   | かのん |
| 柏城小二年  | 想田  | 丈琉  |
| 柏城小二年  | 立石  | 優奈  |
| 白方小二年  | 木船  | 蒼   |
| 白方小二年  | 深谷  | 蘭   |
| 大東小三年  | 宗形  | 栞音  |
| 第一小三年  | 河原胡 | 夕菜  |
| 第三小三年  | 坂本明 | 佳里  |
| 柏城小三年  | 遠藤  | 凜愛  |
| 大森小三年  | 関根  | 颯良  |
| 大森小三年  | 関根  | 凜空  |
| 長沼小三年  | 森   | 菜々子 |
| 阿武隈小四年 | 鈴木  | 心優  |
| 柏城小四年  | 大和田 | あやめ |
| 西袋一小四年 | 遠藤  | 瑛人  |
| 長沼小四年  | 深谷  | 結依  |
| 白方小四年  | 渡辺  | 優樹  |
| 第三小五年  | 吉田  | 夕凜  |
| 柏城小五年  | 橋本  | 彩裕実 |
| 柏城小五年  | 宮田  | 大輝  |
| 柏城小六年  | 高橋  | 佑菜  |



- |                   |        |    |     |
|-------------------|--------|----|-----|
| 初めてでしわなくてきたよもちまるめ | 大森小六年  | 関根 | 偉央  |
| えんぴつが卒業間近を教える     | 大森小六年  | 渡辺 | 凜   |
| おじいちゃん戸を開けて言う雪降るぞ | 大東小六年  | 若林 | 里歩  |
| ふとんから気合で起きる冬の朝    | 白方小六年  | 矢部 | 聖奈  |
| 凡フライ見上げた空に鱗雲      | 西袋中一年  | 吉田 | 悠翔  |
| 満月の光の中で本開く        | 第三中二年  | 笠巻 | 乃々愛 |
| ごうごうと燃ゆる松明あかしの火   | 小塩江中三年 | 並木 | 稜汰  |

どの句も子ども達が、自然の移ろい、思いやり、ユーモア、うれしいこと、さびしいこと・色々なことを、17文字のリズムで指折り数える姿が浮かびますね。

## 俳句をよもう

そつぎよう  
山笑ふ画室に白湯をいただきて  
薄紅や黄緑、クリーム色と淡い色合いが山を埋めています。アトリエでほっと和んだ一景です。  
山笑うみづうみ笑ひ返しけり  
春らんまんの日。湖のほほえみ返し」  
でしようか。スケールの大きい一景です。  
故郷やどちちらを見ても山笑ふ  
山がほわっ、ほわっと気持ちよく笑っている。春が来たんだな。やっぱり、ふるさとはいいな、と平穏な風景がそこにあります。



黒田杏子  
大串章  
正岡子規

## 投句募集

俳句（選句会・発表）年二回  
ポスト（副賞）記念品・作品集

夏山は「山滴る」  
秋山は「山装つ」、  
冬山は「山眠る」と  
よまれます。

## 言の葉

一七十二候  
桃始めて笑う



（3月10日〜14日ごろ）  
「笑う」とは「咲く」のこと。桃のつぼみがほころんで、花が咲き始めるころ、という意味です。むかしは、「咲く」という言葉を「笑う」と表したそうです。  
ゆつくり開いていく桃の花は笑っているようです。  
【須賀川市芭蕉記念館かわら版第16号】をお届けします。

春になり、卒業、進学、就職、転職、退職と悲喜こもももの季節が訪れました。  
「会うは別れの始め」といいますが、この時は、希望に満ちた新たな旅立ちの第一歩ですね。

これよりは恋や事業や水温む 虚子